九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

A Study on the Modernization of Korean Traditional Music in NANTA

李, 敬美
九州大学大学院芸術工学府

https://doi.org/10.15017/19759

出版情報：九州大学, 2010, 博士（芸術工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

第 1 部　韓国伝統音楽の現状

第1章 継承された韓国伝統音楽

1.1.伝統音楽の時代区分

正楽を中心とした韓国伝統音楽史は「古代音楽」「中世音楽」「近代音楽」そして「現代音楽」の 4 つに分類される[23]。

古代音楽は楽譜や楽器が残されておらず，文献や壁画に書かれた記録から類推されるだけである。王朝史としては三国時代から統一新羅時代（668～918）から高麗時代（918～1392）初期の 1116 年までになる。

中世音楽は高麗の 16 代王であるイェジョン（睿宗 1079～1122）の在位中だった 1116 年に中国からデソンアアック（大晟雅楽）[24]が輸入された時から分類される。中世音楽は儀式のための音楽が主であり特に宮廷音楽の発展が見られる。李氏朝鮮時代（1392～1910）の第 4 代王であるセジョン（世宗 1397～1450）により，ジョンカンボ（井間譜 정간보）[25]が創案（1447）され，中世音楽の楽署や楽譜が編纂されるようになった。

近代音楽は弦楽器の演奏法が定着した楽譜として高く評価されている『洋琴新譜』が編纂された 1610 年から分類することが出来る。近代音楽では民俗楽が盛んになり，そこには多様なリズム様式が見られる。

1900 年から現在までの音楽は現代音楽として分類することが出来る。歴史的には 1910 年から 1945 までの日本植民地時代で伝統音楽の継承の危機でもあったが，西洋音楽受容と共に民族音楽模索が活発に行われた。1948 年には韓国（大

[23] ジョン・インピョン(全仁評)，『韓国音楽史』現代音楽出版社，2000，pp. 22[原書名:전인평『한국음악사』현대음악출판사，2000，pp. 22]

[24] 中国宋徽宗時代に創作された「大晟雅楽」が 12 世紀（西暦 1116 年）に高麗に受容され，種儀式や祭りに使用された。張師勛，『最新国楽総論』 世光音楽出版者，1985，pp. 403～405

[25] ジョンカンボ（井間譜 정간보）は朝鮮時代の第 4 代王の世宗が創案した楽譜である。ジョンカンボは四角(ジョンカン=井間)で示された拍の単位のつながりによって持続を表現される。ジョンカンボに関しては第 5 章 音楽としてのナンタにて詳しく述べている。pp. 107

韓民国）と北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）に分断され，1950 年には韓国と北朝鮮の間で朝鮮半島の主権を巡る朝鮮戦争が起き，1953 年に休戦になった。韓国と北朝鮮は現在も南北二国に分断されているため本研究は 1948 年以降の韓国伝統音楽の継承を主にしている。

1948 年韓国政府が樹立されてから韓国は伝統文化の継承のために積極的に努力している。1951 年には音楽機関である国立国楽院が開院され，伝統音楽の継承が行われている。1954 年からは大学において伝統音楽の教育が始まり，伝統音楽が継承と創作活動も行われるようになった[26]。このような時代による韓国伝統音楽の分類を表 1 に示す。

表 1 韓国伝統音楽の時代による分類

<table>
<tr><th>伝統音楽分類</th><th>王朝・政権</th><th>特記事項</th></tr>
<tr><td rowspan="3">古代音楽
～1116</td><td>原始時代</td><td rowspan="3">韓国音楽黎明期</td></tr>
<tr><td>三国時代
（新羅，高句麗，白済）
57B.C.～A.D.668</td></tr>
<tr><td>統一新羅時代
668～918</td></tr>
<tr><td rowspan="2">中世音楽
1116～1610</td><td>高麗時代
918～1392</td><td rowspan="2">中国音楽受容
大晟雅楽輸入
（1116）
宮廷音楽発展
宗廟祭禮楽誕生
（1446）
井間譜創案
（1447）
宗廟祭禮楽採択
（1464）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">李氏朝鮮時代
1392～1897</td></tr>
<tr><td rowspan="2">近代音楽
1610～1900</td><td rowspan="2">大韓帝国時代
1897～1910</td><td rowspan="2">庶民音楽復興
『洋琴新譜』編纂
（1610）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">現代音楽
1900～</td><td rowspan="3">西洋音楽受容
民族音楽模索
大学の国楽教育（1954～）</td></tr>
<tr><td>日本植民地時代
1910～1945</td></tr>
<tr><td>大韓民国（韓国）
1948～</td></tr>
</table>

[26] チャン・サフン（張師勛）『韓国音楽史』世光音楽出版者，1986，pp.500～596 の内容を表に作成した。

1.2.伝統音楽の継承

1.2.1 李氏朝鮮時代以前

朝鮮半島の歴史において最初に音楽機関が設立されたのは七世紀の統一新羅時代で儀礼，教育，外交の業務を担当していた礼部に属された音聲署（ウムソンソ　음성서）である。音聲署の管理者として 2 人の司楽をおいたが，具体的な任務に関しては残されていない。

高麗時代にあった音楽機関は大楽署（デアクショ　대악서）も統一新羅時代と同じく礼部に属されていて宮廷内の儀式の音楽には全て関わった。高麗時代に 2 番目に設立された管絃房（クァンヒョンバン　관현방）は音楽の教育を担当したが 1391 年に廃止される。管絃房が廃止される同年に雅楽署（アアクショ 아악서）が出来た。雅楽署は管絃房と変わりはなかったがその名称は 1116 年に中国から輸入された大晟雅楽から由来したと言われている。李氏朝鮮時代には掌楽院（チャンアクウォン 장악원）が音楽機関として存在し，教育，楽書編纂など音楽に関する全て関わった。王立音楽機関であった掌楽院に属していた人数は 700 人ぐらいに至るほど盛んであった[27]。

韓国は李氏朝鮮時代までは儒教を国家統治理念として運営された。儒教国家として「礼」を最高の権威や正当性を有する規範秩序とみなし，国家統治上の各種制度と民の生活規律を形成するための効率的な規範統制の根本にした。特に李氏朝鮮王室では国家の権威や正当性に五つの儀礼（五礼）を通して確立させようと努力した。五礼は吉礼（祭祀），嘉礼（冠婚），賓礼（賓客），軍礼（軍旅），凶礼（喪葬）に関する 5 種類の礼である。吉礼は王室の祖先に対する礼として宗廟祭（図 1-1）と土神や，穀物の神に豊かな収穫を祈る各種国家祭礼を指す。嘉礼は王室の婚礼及び成人に達したことを示す元服の儀式，王妃や皇太子，皇太子妃に職位を授与する儀式を言う。賓礼（賓客）は国家の賓客である外国使節を迎え入れるための儀式である。軍礼は軍隊の出陣の祭に行われる儀式と礼節を，凶礼は喪中に行う儀式の総称である。この五礼の中で李氏朝鮮王室において最も重要な儀式とされたのは宗廟祭と神に豊かな収穫を祈る

[27] クォン・オソン（權五聖）『韓民族音楽論』，1999，pp. 59～94［原書名：권오성『한민족음악론』1999，pp. 59～94］

各種国家祭礼であった。李氏朝鮮時代までの音楽機関ではこのような宮廷儀式の祭に演奏される音楽を担当し，継承と教育を行って来た。李氏朝鮮時代最も重要な儀式とした宗廟祭に演奏されて来た宗廟祭禮楽は1964年韓国重要無形文化財の１号に指定され，現在も保存・継承されている（図 1-2，図 1-3）。

곤룡포를입은 황세손 李玖씨등을 선두로 이조역대 왕을 제사하는 종묘대제가 빈속에 거행됐다。

「宗廟大祭」봉행

祭禮舞樂속 李朝儀式

이조역대왕의 제사를 지내는 중요무형문화재 제56호 종묘대제(宗廟大祭)가 1일낮12시 비가내리는가운데 서울종로구묘동 종묘정전(正殿)에서종묘대제봉행위원회(위원장 李鳳宇)주관으로거행됐다。

문화재관리국과 문화방송 경향신문 후원으로열린 이날 종묘대제는 지난75년 중요무형문화재로 지정된후 두번째 행사로 李方子여사를 비롯, 황세손 李玖씨등 全州이씨종친회원등이 참석했고 많은시민들이 참관했다。

41명의 국악원 악공들이 世宗대왕이 제정한 종묘제례악을 연주하고 국립국악고등학교 여학생64명이 제례무를 추는가운데 거행된 이날 대제에서 제주인 李玖씨는 대한황제의 대례복인 곤룡포와 면류관을 썼고 35명의 헌관(獻官)은 철장면복, 2백45명의 집사들은 흑단령을 입고 이조역대 제왕들이 율리던 제례의식대로 종묘대제행사를 봉행했다。

図 1-1 李氏朝鮮王朝の先祖に対する祭礼（宗廟大祭）である宗廟祭は毎年５月の第一日曜日にソウルの宗廟で行われている。1977年当時は韓国文化財管理局，京郷新聞の支援で行われ，国立国楽院に所属している41人の楽工により宗廟祭禮楽が演奏された。(1977年 5月 2日 京郷新聞

모습없는 寶物

重要無形文化財로

1次로 일곱가지 指定

保有者엔 手當·敎育費支給

図 1-2 李氏朝鮮王朝の先祖に対する祭礼（宗廟大祭）の祭に演奏される宗廟大祭楽は 1965 年に韓国重要無形文化財の 1 号に指定されて保存，継承されている。2 号には民俗芸能に分類される仮面劇のヤンジュビョルサンデノリ（楊州別山臺ノリ 양주별산대놀이）が，3 号には民俗芸能のナムサダンノリ（男寺党ノリ　남사당놀이）が指定された。重要無形文化財し指定された分野に教育費支援などの支援を行うと報道された。（1965 年月 1 月 14 日　東亜日報）

図 1-3 国立国楽院の正楽団による宗廟祭礼楽。李氏朝鮮王朝時代の宮廷儀式を再現するため舞台設置を宮廷にして演奏している。（写真提供：国立国楽院）

1.2.2 李氏朝鮮時代以降

李氏朝鮮時代までは国家統治理念として儒教国家として「礼」を最も大事し，宮廷儀礼と共にその音楽も継承されて来たため 1900 年代以前まで継承されて来た伝統音楽は宮廷音楽を意味する。王朝があった統一新羅時代から李氏朝鮮時代までは宮廷に属した音楽機関が存在し，宮廷儀式や教育を担当して継承して来た。しかし，1897 年に大韓帝国宣布と当時に李氏朝鮮時代は終わることから宮廷の儀式や役割もなくなり，宮廷音楽の継承も難しくなった。1897 年から 1907 年までは掌楽院が教坊司（キョバンサ　교방사）として継承され，1907 年からは掌楽科として運営された。李氏朝鮮時代に掌楽院に属していた人数は 700 人に至ったが 1908 年の教坊司に属していた人数は 300 人程度まで縮小されていた。掌楽科では　掌楽院で務めていた楽工に対する官職を国楽師と変え，最高の管理職は国楽師長と呼ばれた。掌楽科の初代国楽師長は李氏朝鮮時代の掌楽院で総管理に務めていたキム・ジョンナム（金宗南 김종남）が任命され李氏朝鮮時代の掌楽院で行われた宮廷儀式で行われた音楽や文化が継承された。掌楽科は第 2 代目にイ・ナムヒ（李南熙 이남희）と 3 代目にハム・ゼウン（咸在韻 함재운）が務め，日本植民地になった 1910 年には雅楽隊と変わったがその人数は

189 人まで減らされていた。1913 年には雅楽隊が李王職雅楽部に改名され，1945 年まで伝統音楽の継承と教育を担当する音楽機関として運営された[28]。

日本植民地時代の音楽機関として設立された李王職雅楽部は朝鮮総督府の李王職長官の監督下で李王家の財政だけで運営される厳しい状況であった。李氏朝鮮時代の掌楽院から継承された教坊司，掌楽科，雅楽隊を経って設立された李王職雅楽部では宮廷儀式で行われて来た音楽を継承，教育した。そのことから宮廷音楽が韓国の伝統音楽と見なされ，伝統音楽に対しても「雅楽」の用語が主に使用されたたと考えられる（図 1-4）[29]。

李王職雅楽部では宮廷音楽の教育と（図 1-5）演奏活動（図 1-6）を行ったが 1915 年には 57 人だけが残っているという状況であり（図 1-7），伝統音楽が命脈だけが維持される程度まで縮小されたのが分かる[30]。日本植民地時代には伝統音楽だけではなく，韓国語などの韓国固有文化は禁止され，伝統音楽においても継承が困難な状況であった。

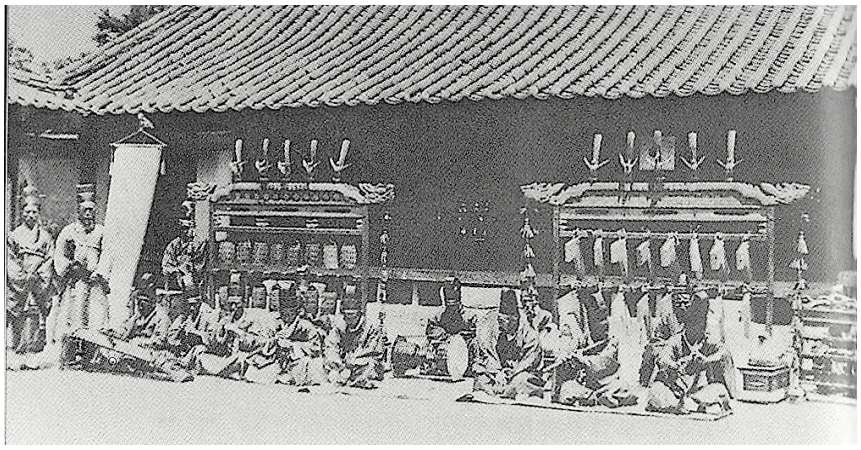


図 1-4 李氏朝鮮王朝の祭礼で行われた祭禮楽を李王職雅楽部員が演奏している。15 人程度の少人数で演奏されている。1920 年代。（韓明熙『ウリ国楽 100 年』玄岩社，2005，pp. 110）

[28] 国際劇芸術協会韓国本部『韓国の公演芸術：古代から現代まで』現代美学社:ソウル，1999，pp. 171～203］［原書名：국제극예술협회한국본부『한국의 공연예술：고대에서 현재까지』현대미학사:서울，1999，pp. 171～203］

[29] ソン・バンソン（宋芳松）『韓国音楽通史』一潮閣，1984，pp. 522～523

[30] ソ・ハンボム（徐漢範）『国楽通論』台林出版者，1981，pp. 265～266［原書名:서한범『국악통론』台林出版者，1981，pp. 265～266］

図 1-5 1920 年の頃李王職雅楽部の授業様子。（韓明熙『ウリ国楽 100 年』玄岩社，2005，pp.116）

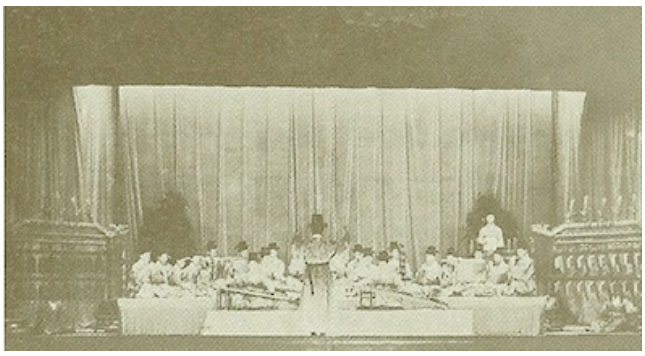


図 1-6 李王職雅楽部による演奏。1937 年。（韓明熙『ウリ国楽 100 年』玄岩社，2005，pp.116）

図 1-7 李氏朝鮮時代までは宮廷の音楽機関で継承と教育されて来た祭禮楽は日本植民地時代には縮小されていた。日本地理大系 第 12 巻(朝鮮篇)，改造社(旧外地関係資料目録) 1929, pp.371

1.3 演奏機関及び演奏会場

1.3.1 劇場設立による民俗楽の発展

韓国は農業社会で劇場においても宮廷に所属されていることが多く，一般民衆が利用できた劇場が現れたのは 1900 年代に入ってからである。1900 年代までには宮廷音楽だけが伝統音楽として継承され，宮廷所属の劇場で行われた。

1900 年に入ると劇場が設立されるようになり，公演を見に劇場に行き始めるようになった。1902 年に最初に設立された劇場は協律社で公立劇場であった。設立の当時には宮廷音楽も行われたが演劇，踊，歌，パンソリ[31]などが中心とする公演が多くなり，時には観客の希望と運営のために映画も上映された。宮廷以外に劇場が設立されてから一般庶民も劇場を利用することができるようになった。このような劇場の発展は宮廷音楽のような貴族中心の音楽活動が一般庶民の音楽活動に変わっていく重要なきっかけになったと考えられる。

1908 年には協律社があった場所に円覚社(図 1-8)が設立され，民間の芸術人を中心とした団体による公演が多く行われた。そのことで一般の人も劇場に観客として見に行くことになり，李氏朝鮮時代まで宮廷音楽を中心に継承されて来た音楽とは異なる民衆的な音楽が発展するきっかけになった。しかし，1960 年に火事で正門だけが残り, 1962 年にはその当時の国立国楽院に移転された(図 1-9）。

李氏朝鮮時代までは宮廷に音楽機関が存在し，儀式と共に伝統音楽が継承されてきたが，民間には宮廷のような音楽機関はなく，庶民の間で発生し口伝されて来た歌や踊などの芸能が多い。このように宮廷音楽と民俗楽は異なる方法でそれぞれ継承されて来た[32]。

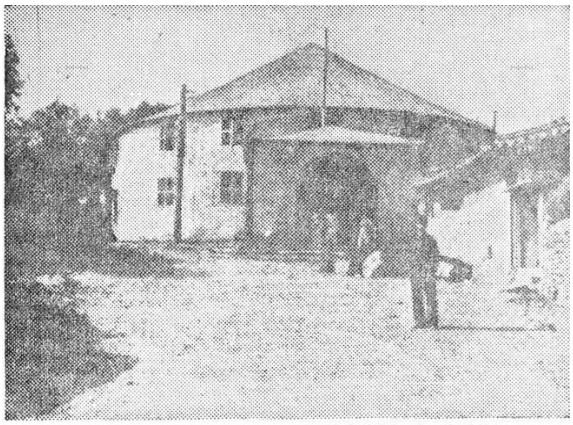
円覚社の設立で民間による劇場と芸術団体が盛んになり，大規模の劇場が必要とされた。1935 年に設立された府民館には大講堂，中講堂，小講堂がある大

---

[31]パンソリ（판소리）は, 朝鮮の伝統的民俗芸能。18 世紀末から 19 世紀に発生した口承文芸のひとつである。1 人の歌い手（ソリックン 소리꾼 ）とプク（太鼓）の奏者（鼓手コス 고수）によって奏でられる物語性のある歌と打楽器の演奏である。パンソリのパン（판）は, 多くの人々が集まる場所や舞台を意味し, ソリ（소리）は曲を意味する。金義煥『朝鮮文化史新講』東洋書院，1985，pp. 451～452

[32]ハン・ミョンヒ（韓明熙）『ウリ音楽 100 年』玄岩社，2005，pp. 56～61［原書名：한명희『우리음악 100 년』현암사，2005，pp. 56～61］

規模の劇場で音楽はもちろんパンソリ，演劇，舞踊，映画，日本の能楽や宝塚の公演も行われた。しかし，府民館は政治的な講演や軍事的な目的の集会も開かれる場所としても使用された。府民館の設立は韓国において都市社会での劇場文化が定着するような役割を果たしたと考えられる。現在は韓国の国会議事堂として使用されている。（図 1-10）



協律社자리에　세워졌던　우리나라最初의　新劇운
동본거지　圓覺社(1908년당시의모습)

図 1-8　演劇, 踊, 歌, パンソリなどの演奏が多く行われた円覚社の 1908 年当時の設立当時の風景。1968 年京郷新聞に協律社があった場所に韓国最初の新劇場である円覚社が設立されと報道された。（京郷新聞 1968 年 7 月 10 日）

圓覺社 再建 運動
文化의 廣場을 渴望
舞臺藝術人들 展開

図 1-9　韓国最初の新劇場である円覚社は 1960 年 12 月 5 日に起きた火事でなくなり，正門だけが残った。その当時には再建する声もあったが実現されず残った正門は 1962 年に国立国楽院に移転されることになる。（東亜日報 1961 年 7 月 30 日）

図 1-10 1935 年に設立された府民館には大講堂，中講堂，小講堂がある大規模の劇場で音楽やパンソリ，演劇，舞踊，映画，日本の能楽や宝塚の公演も行われた。現在は韓国の国会議事堂として使用されている。（東亜日報 1994 年 10 月 13 日）

李氏朝鮮時代までは宮廷儀式を中心に盛んに継承され，教育されてきた宮廷音楽は王朝が廃止されると不要になり，音楽機関の規模も縮小されるなど役割も変わって来た。さらに大韓帝国時代（1897～1910）から日本による植民地支配時代（1910～1945）に更に縮小されたため 1948 年に韓国が建国されてからは宮廷音楽を伝統音楽と見なしてそれを再建と継承しようとする動きが強まった。

韓国政府は 1950 年に起きた朝鮮戦争で宮廷音楽においても民俗楽においても消滅が問題化されるぐらい衰退の危機が瀕した。そのため朝鮮戦争後伝統音楽の保存と継承を目的に専門的に演奏する劇場や団体を設立しようとした。1950 年以降に設立された韓国伝統音楽機関として挙げられる劇場は国立国楽院，国立劇場，小劇場の空間舎郎，そして野外劇場のソウルノリマダンなどがある。これら 4 つの劇場はその環境は異なるが伝統音楽を継承するため公演や教育を行った例として挙げることができる。

1.3.2 韓国国立国楽院

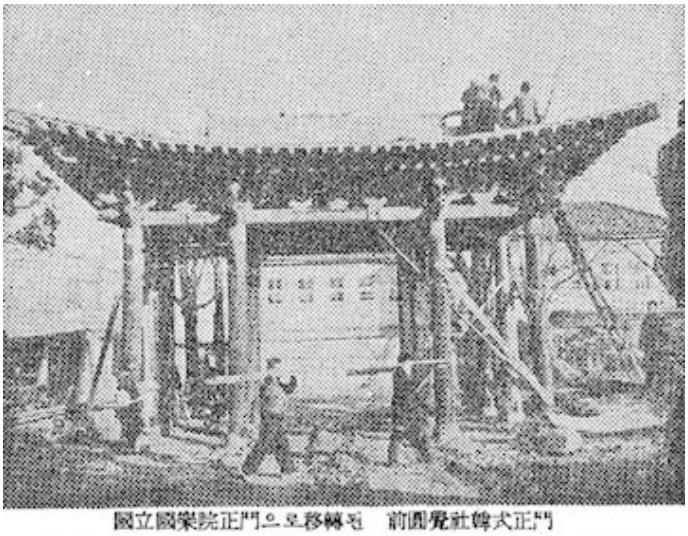
日本植民地時代が終わり，韓国では伝統音楽を継承するために伝統音楽演奏機関を設立する動きがあった。1950 年ソウルに設立が予定されていた韓国国立

国楽院は当年６月に朝鮮戦争が起こったため 1951 年に釜山に設立され，初代院長としては李王職雅楽部出身のイ・ジュウォン（李珠煥 이주원）が任命された。国楽院は伝統芸術を復興させようとした芸術家の集まりであった「国楽建設本部」から始まり，国楽会に変わってから現在の国楽院となった。釜山に設立されたその当時は民間の集まりだったが現在は国立音楽機関として運営されていて朝鮮戦争が終わってから首都であるソウル市の鍾路区に移転し（図 1-11），1987 年にはソウル市の瑞草区に移されてから現在に至る（図 1-13）。[33]

韓国伝統音楽を意味する「国楽」という用語は韓国伝統芸術分野において広く使用されている。伝統音楽に対して国楽という言葉が登場したのは 1907 年に掌楽科の職名を国楽師と国楽師長にしたことから由来したが，その当時には李氏朝鮮時代から継承されて来た宮廷音楽を韓国音楽と見なされて使用したと考えられる。

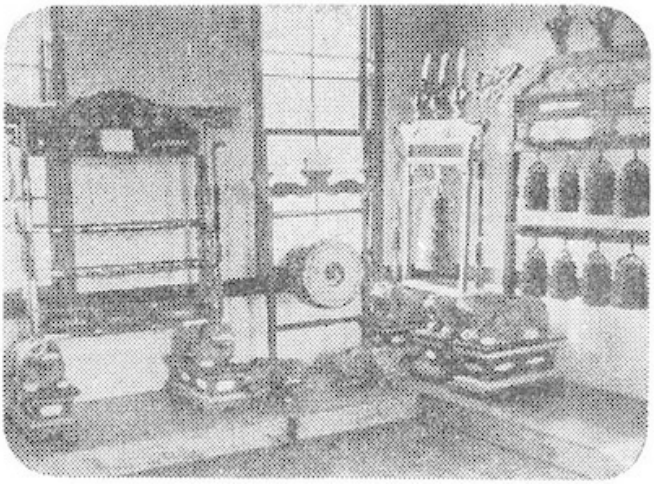
1951 年韓国の国立音楽機関として伝統音楽の保存・継承・発展させるために設立された国立国楽院では，伝統音楽として雅楽，正楽，器楽，唱楽，舞踊に広く関わった。そのため伝統音楽を含み，伝統楽器に対しては国楽器と呼び，国楽の専門家に対しては国楽人と呼ぶなど「国楽」という言葉が普及された。1951 年の国立国楽院にはジャンルによって正楽団，民俗楽団，舞踊団があったが，2004 年には創作楽団として国楽管弦楽団が創団された。国立国楽院に所属されている音楽団体は常設公演を始めとする多彩な演奏活動と教育を通して宮廷音楽の枠に縛られない伝統音楽が継承されている。また国立国楽院では他の演奏団体とは異なるような国楽の基礎研究及び国楽学の学術研究，専門家による国楽教育プログラム運営，国楽博物館（図 1-14）及び国楽資料館運営，世界音楽祭を開催するなど総合的な伝統芸術機関として運営されている。

[33] チャン・サフン（張師勛）『韓国音楽史』世光音楽出版者，1986，pp. 495～496



國立國樂院正門으로移轉된　前圓覺社韓式正門

図 1-11 円覚社が火事で正門だけが残った国立国楽院に移転される当時様子。韓国最初の公立劇場「円覚社」が火事になくなり，その正門をソウル市鍾路区所在当時の国立国楽院の正門に移転した。（京郷新聞 1962 年 1 月 22 日）



◇악기 진열실의 일부

図 1-12 国立国楽院がソウル市鍾路区に所在していた時代に演奏会場と別に伝統楽器室が設置され，楽器が展示されていた。現在の国立国楽院にも当時の国立国楽院のように伝統楽器を展示している国楽博物館が運営されている。（京郷新聞 1962 年 1 月 22 日）

図 1-13　現在の国立国楽院はソウルの市瑞草区に所在している。国立国楽院には正楽団，民俗楽団，舞踊団，創作楽団が所属されて演奏と教育活動が年中行われている。（李敬美撮影　2010 年 8 月）

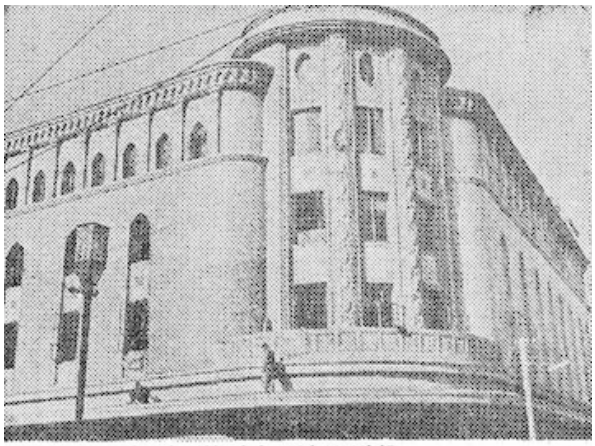
図 1-14　国立国楽院が鍾路区に所在していた時には楽器室だけがあったが現在は国楽博物館も一緒に運営されている。国楽博物館では伝統楽器展示と伝統楽器の体験室などがある。　（李敬美撮影　2010 年 8 月）

1.3.3 国立劇場

1940 年代からはパンソリを土台として劇化した唱劇が盛んになり，劇場公演が多く行われることで人気を集めた。唱劇の原型になるパンソリは物語を歌いながら語る歌い手と太鼓奏者の二人だけで演じられるのに対し，唱劇はパンソリの物語に演劇の要素を加えて大勢の人数で上演されるものである。唱劇の人気は戦後も続いてもっと盛んになり，以前よりも多様になった物語でレパートリーが作られていた。

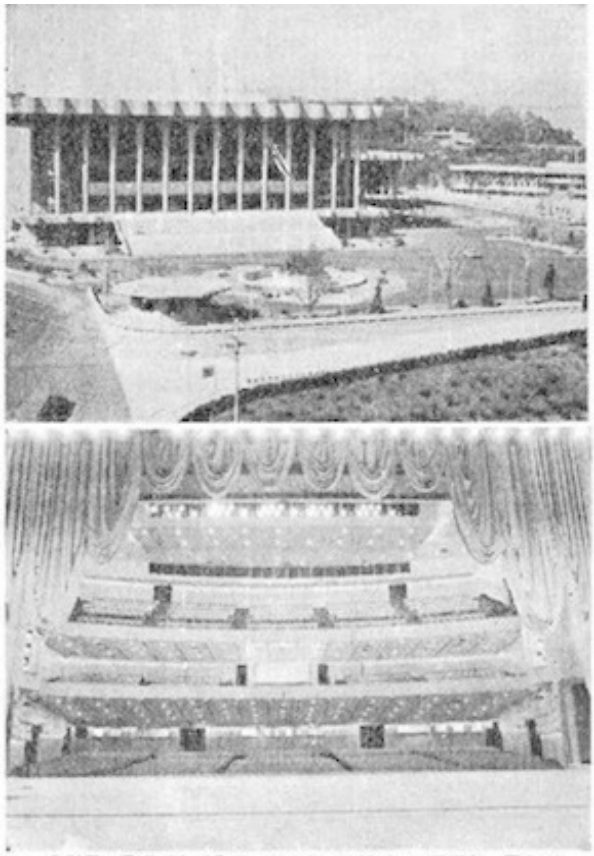
パンソリや唱劇，国立国楽弦楽団の公演を中心に行われる劇場が「国立劇場」である。初代劇場長にユ・チジン（柳致眞，유치진）が任命され 1949 年 10 月に民俗演劇芸術の普及と創造することを目標に劇場の運営委員会が出来た。
1950 年 4 月に日本統治時代に建てられた府民館を国立劇場として開館したが，朝鮮戦争により大邱に臨時の劇場を建設し利用した。戦後 1957 年 6 月にソウル明洞の芸術会館を引き受け，国立劇場として利用するようになった（図 1-15）。現在の国立劇場は 1973 年に新しく設立され，所属団体には国立劇団，国立唱劇団，国立舞踊団，国立国楽管弦楽団の 4 つの公演団が所属している（図 1-16）。

1962 年から国立劇場に所属している国立唱劇団はパンソリとパンソリに演劇の要素を加味して再創造した唱劇の公演を中心に行われて来た。国立唱劇団は現在も新しい物語のレパートリー制作を通して唱劇の可能性を広げようとしている。継承されたパンソリを保存・継承すると同時に伝統を基盤にした新しい公演スタイルを生み出すことで唱劇を活性化させようとしている。また 1995 年に創団した国立国楽管弦楽団は伝統音楽の現代化を目標に新しい民俗楽の創造と国楽の世界化を目標に活動を続けている。また，民俗楽に分類されるパンソリに新たな要素を加味して新たな芸術作品を制作することで伝統の継承と発展を目指す活動もある。



말끔히 때물벗긴　國立劇場外部

図 1-15 ソウル明洞にあった芸術会館が 1957 年 6 月から国立劇場として利用された当時の外部。現在は明洞芸術劇場として運営されている。（東亜日報 1961 年 12 月 16 日）



❶한국 무대예술진흥에 새로운 중심지로 등장한 國立劇場. 무대공연을위한 최신설비를 구비한 국제적인 극장으로 감탄을 받게되었다. ❷호화로운 대극장 내부. 무대에서 본 극장석의 광경이다.

図 1-16 1973 年に新しく建てられた当時の国立劇場の外見と大劇場の内部。現在は国立劇団，国立唱劇団，国立舞踊団，国立国楽管弦楽団が所属している。（京郷新聞 1973 年 10 月 13 日）

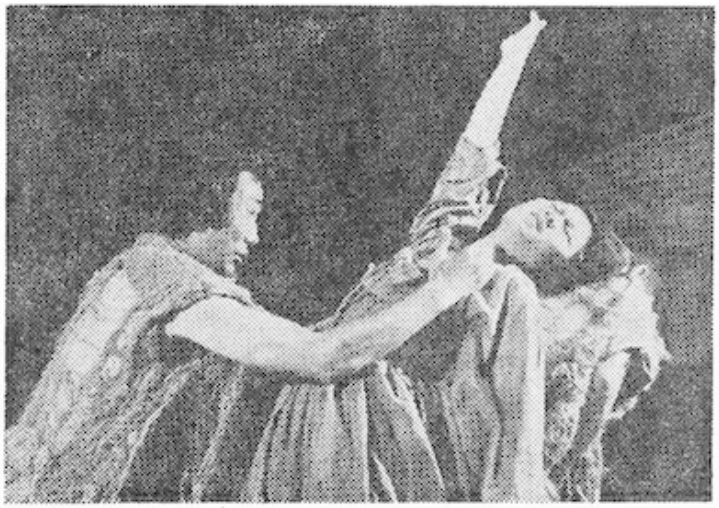
1.3.4 空間舎郎（伝統音楽公演場）

空間舎郎は高さ 4.5m で 120 席の劇場で韓国の建築家であるキム・スグン(金壽根 김수근)の建設事務室空間舎郎 (図 1-17) の地下を小劇場として設計した。国立国楽院や国立劇場では劇場を舞台として公演することを目指して来たが，空間舎郎では大編成の演奏会ではなく小編成の器楽演奏や演劇 (図 1-19) 独奏，パンソリ，踊などを中心に開かれた。小劇場で伝統音楽の公演場として利用し始めたのは 1977 年 4 月で開館記念講演もパンソリと伽倻琴の小編成の演奏が行われた。

空間舎郎の建物が伝統と現代の調和を意味していることからそのコンセプトに合わせて企画された 8 日間のコンサートは伝統芸術の夜と現代音楽の夜に 4 日ずつ分けられ行われ，話題となった。空間舎郎では 70 年代から 80 年代にかけて伝統音楽の演奏会が多く開かれた。空間舎郎の公演が世間に知られて活動が活発になった芸術家も少なくない。伝統芸能の一つである身体障害者や病人の動きを踊に表現したビョンシンチュム（病身チュム 병신춤）を劇場で踊り始めた女流演劇家のコン・オクチン(孔玉振　공옥진, 1931～)，伝統舞踊家のイ・メバン(李梅芳 이매방, 1927～)が一人舞台で演じたも空間舎郎であった。1978 年にサムルノリ(図 1-21)が初演されたのもこの劇場で様々な芸術家がこの劇場で活動を行った。空間舎郎では芸術や文化において伝統と現代を超えて自由に表現が出来る劇場であった。空間舎郎は新たな芸術文化が生まれた劇場として，韓国の公演文化に影響を与えた劇場として高く評価されている。現在はギャラリーとして運営されている。

図 1-17　1970 年代から 1980 年代にかけて様々な芸術の公演が行われた小劇場の空間舎郎の全景。建設事務室「空間舎郎」の地下にある空間舎郎は現在ギャラリーとして運営されている。（東亜日報 1986 年 6 月 20 日）

図 1-18 1982 年に空間舎郎で異色公演が開かれ話題になった時の新聞記事。現代舞踊とジャズ一つの舞台で行われたことで「違うジャンルの芸術を一つの舞台へ」という記事が掲載された。伝統芸能以外にも現代舞踊とジャズ，国楽室内楽団による演奏会など多様なジャンルの芸術の公演が行われた。（毎日経済 1982 年 2 月 19 日）



마당극 「春風의처」의 한장면.

図 1-19　小劇場の空間舎郎では一人や二人による小規模の演劇公演も多く行われた。(京郷新聞 1978 年 6 月 28 日)

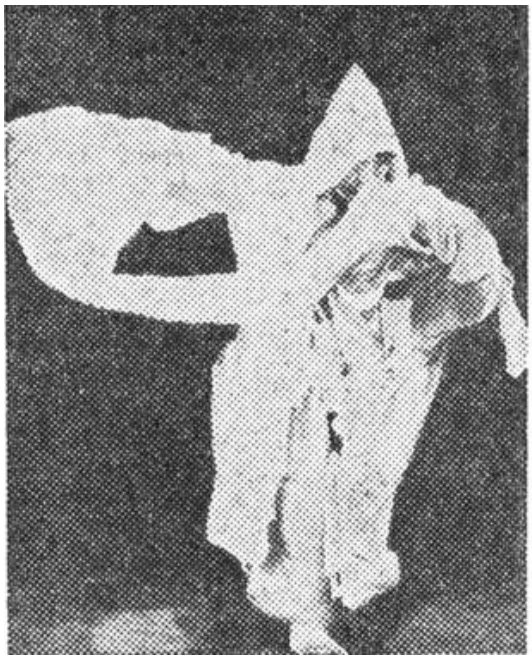


図 1-20 1978 年には空間舎郎の開館 1 週年記念として「伝統舞踊の夜」が行われ，伝統舞踊家のイ・メバン(李梅芳)が踊っている様子。(京郷新聞　1978 年 4 月 18 日)

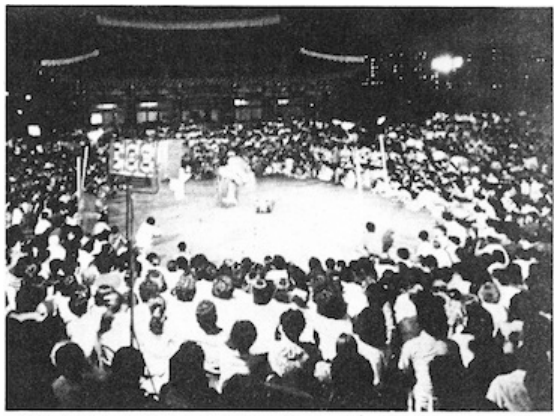
김덕수 사물놀이패가 78년에 소극장「공간사랑」에서 최초로 공연을 했을때의 모습。왼쪽부터 李光壽,金德洙,崔鍾實,故金容培씨。

図 1-21　小劇場空間舎郎で初演された当時のサムルノリ演奏の様子。左から李光壽，金德洙，崔鍾實，故金容培　1978 年当時の様子。（京郷新聞　1993 年 3 月 25 日）

1.3.5 ソウルノリマダン（伝統音楽野外公演場）

国立国楽院，国立劇場，空間舎郎は室内の劇場であるがソウルノリマダンは野外劇場である（図 1-22）。国立国楽院は正楽を中心に，国立劇場は民俗楽を中心に，空間舎郎は実験的な公演が行われた。3 つの音楽機関は室内の会場でソウルノリマダンは野外で行われる伝統民俗芸能や伝統音楽の保存と継承のために 1984 年に設立された。ソウルノリマダンが設立されてからは野外で行われる重要無形文化財に指定された民俗芸能と民俗楽の公演が活発に行われるようになった。ソウルノリマダンでは毎週土日と決まった祭日に無形文化財を中心とする伝統芸能公演が年 120 回以上行われている。

韓国伝統音楽の民俗楽にはプンムルや労働歌，民謡，仮面劇(図 1-23)など野外で行われて来た民俗芸能も多くあるが民俗楽の中では王室で運営される音楽機関などがあった訳ではなかった。特にプンムル，労働歌や民謡は農業の祭田んぼで行われるか広場で行われたため劇場よりはソウルノリマダンのような野外で行われることが多かった（図 1-23，図 1-24）。ソウルノリマダンでは宮廷音楽はほとんど行われることなく，民俗楽や民俗芸能を中心に行われている。現在，ソウルノリマダン内にはソンパ民俗保存会が常住していて，伝統文化の保存と継承のために青少年を対象に休日に無料講義も行っている。



서울놀이마당개장이래 가장 많은 관객이 몰렸던 지난 6월 22일의 봉산탈춤 공연。

図 1-22　ソウルノリマダンは野外劇場で円形の真ん中が舞台で観客により囲むようになっている。週末と祭日に民俗楽や民俗芸能を中心に年中行われている。民俗芸能に分類される仮面劇（鳳山タルチュム）の公演の様子。鳳山タルチュムは重要文化財 17 号に指定されている。（東亜日報 1985 年 11 月 6 日）

新名所·名物

서울 놀이마당

42개 傳統민속 공연…가족단위 관람많아

図 1-23　野外劇場であるソウルノリマダンは伝統芸能の公演が多く行われる。1985 年に開館された以降 1986 年には 42 種類の伝統芸能が上演され，観客が 44 何人を超えるなど家族単位の観客が多く見られたと報道された。（京郷新聞 1987 年 10 月 3 日）

図 1-24　楽器演奏と演劇や踊りによって行われるタムチュムのジャンジュビョルサンデノリ（楊州別山臺ノリ）は民俗芸能に分類される。公演説明としては風刺的な作品として有名な楊州別山臺ノリは重要文化財 2 号に指定され，保存・継承されていると報道された。（京郷新聞 1988 年 9 月 22 日）

1.4 伝統音楽の専門的な教育機関

1.4.1 雅楽部員養成所と朝鮮正楽伝習所

李氏朝鮮時代には王立音楽機関として伝統音楽の継承と教育を担当してきた掌楽院は 700 人以上の楽工が属していたが李氏朝鮮王朝の廃止と同時に段々縮小される。1897 年から 1907 年までは教坊司として運営され，1907 年からは掌楽科にその名称が変わり，305 人の楽工が所属していた。日本植民地になった 1910 年からは雅楽隊に継承され残された楽工は 270 人に縮小され，1913 年には伝統音楽の継承と教育を目的に李王職雅楽部が設立されたが 1915 年には 57 人だけが残っていた。

李王職雅楽部には雅楽部養成所をが付属されて伝統音楽が教育されていたが世襲制度で継承されてきた音楽人の縮小と楽工の高齢化で伝統音楽の継承が問題化された。そこで李王職雅楽部の雅楽長であったキム・ヨンゼ[34]は伝統音楽の継承のため生徒の募集を提案し，それを実践した（図 1-25）。李王職雅楽部の楽

[34] キム・ヨンゼ（김영재）李王職雅楽部の初代雅楽長

生募集は 1919 年に初めて実行されたが，第一回目の募集には 9 人が，1921 年，1926 年，1931 年，1936 年には 18 人ずつ，1940 年と 1945 年には 25 人ずつ採用された。

世襲制度を募集制度に変えて運営したのは「雅楽回生」として高く評価されている。また日本政府は李王職雅楽部の廃止を検討中であったが，日本から雅楽実態の調査で来ていた田邊尚雄が朝鮮雅楽の保存と東洋の音楽として発展させたいと提案し，廃止されなかった。雅楽部員養成所は 1972 年には国楽高等学校に名称を変え，現在も国立音楽教育機関として運営されている（図 1-26）。国楽高等学校は実力が優れた創意的な伝統芸術人を育成という旗幟を基に毎年 150 人の学生を募集している。教育費用が全て国費で運営される韓国唯一国楽教育機関で多様な芸術交流と文化体験を強調する方針で国楽の教育と学生による演奏活動も行っている（図 1-27）。

1909 年に開かれた調陽倶楽部は日本植民地時代にあった唯一の私設音楽教育機関教である[35]。1911 年には朝鮮正楽伝習所に名称が変わり，韓国伝統音楽と西洋音楽との教育をしていた。朝鮮正楽伝習所は歌謡部，音楽部，楽具製造部があり，音楽部は朝鮮楽科と西洋楽科に分けらて運営された。朝鮮楽科の卒業生は伝統音楽の中でも特に正継の継承に寄与し，西洋楽科の卒業生は西洋音楽の受容の土台を作った[36]。しかし，経済的な問題で運営が難しくなり，1935 年には水曜会として演劇だけをしていたが，1944 年にはついになくなってしまう。日本植民地時代が終わって 1947 年から現在の韓国正楽院として活動を再会し，現在に至る。朝鮮正楽伝習所は韓国最初の私立音楽教育機関として運営されたことと伝統音楽と西洋音楽の教育を行ったことが韓国近代音楽に寄与されたと評価されている。

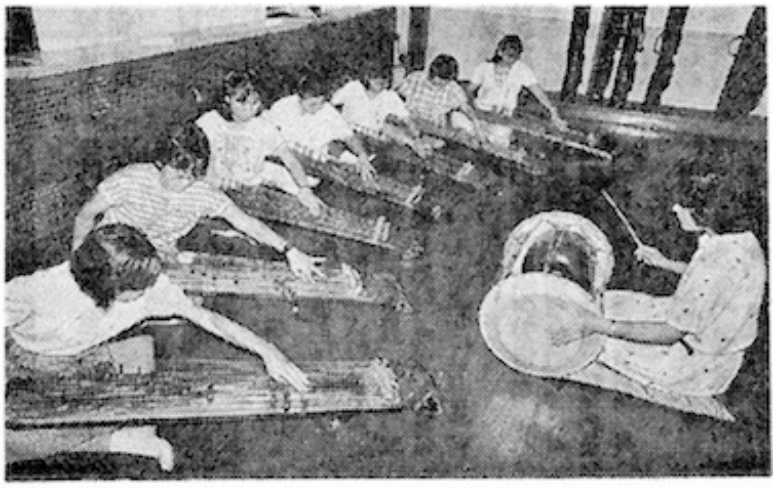
韓国は李氏朝鮮時代までは儒教を国家統治理念として運営し，音楽機関で宮廷儀式の祭に正楽の継承と教育を行ってきた。李氏朝鮮王朝が廃止される上に日本植民地時代に国家統治理念として重用視された伝統音楽の継承が危機にな

[35] チャン・サフン（張師勛 장사훈）『黎明の東西音楽』寶晋齋：ソウル，1974，pp. 14～88［原書名：張師勛 『黎明의東西音楽』보진재：서울，1974，pp. 14～88］

[36] ソン・バンソン（宋芳松）『韓国音楽通史』一潮閣：ソウル，1984，pp. 542～543

ってしまう。このような歴史的な背景から韓国では伝統音楽の再建と継承のための政策を実行するなど韓国政府が動く必要があったと考えられる。

図 1-25 1920 年代当時に李王職雅楽部の教育機関であった雅楽部員養成所に所属されていた楽工が指導を受けている。（韓明熙『ウリ国楽 100 年』玄岩社，2005，pp.124）



교사의 장고장단에 맞춰 가야금실기교육을 받고
있는 국악고교 학생들。

図 1-26　国立国楽高等学校の学生達が伽倻琴の指導を受けている様子。国楽高等学校は韓国唯一の国立国楽教育機関である。（東亜日報 1985 年 9 月 6 日）

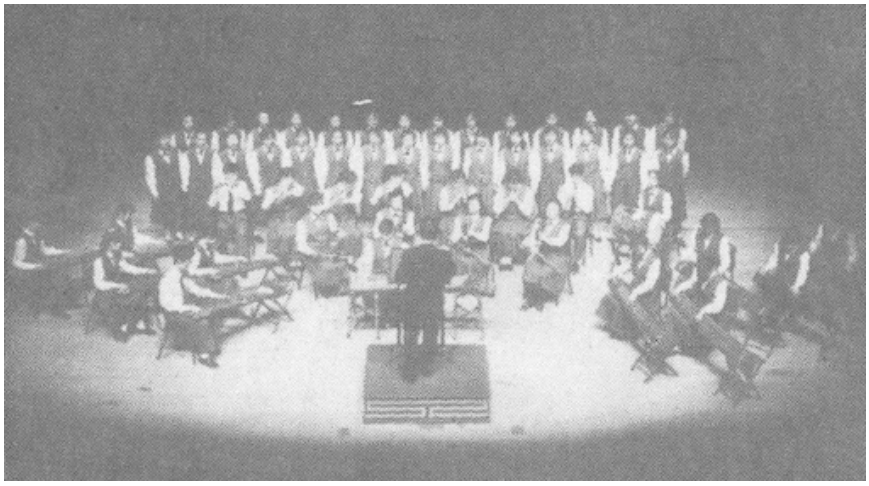


図 1-27　国立国楽高等学校の学生達による演奏会で西洋の管弦楽団に模した国楽管絃楽団が合唱団と演奏している。（東亜日報 1985 年 10 月 2 日）

1.4.2 大学の国楽教育

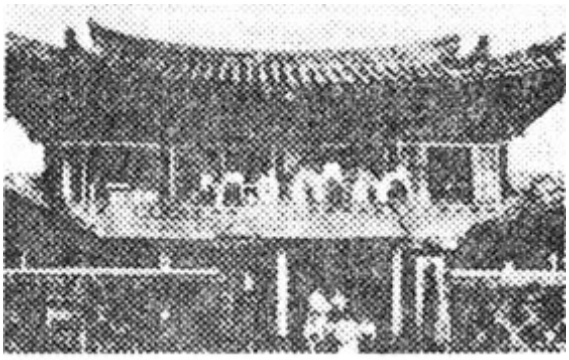
民俗楽の一部の民謡，雑歌，パンソリなどはキーセン（妓生 기생）[37]によって継承されることもあった。妓生の起源は，新羅や高麗にからとされ，高麗時代には官妓・官婢の中で容姿の優れた者を選別し，歌舞を習わせ女楽としたとあり，これが妓生のルーツとされている。本来は朝鮮国において，諸外国からの使者や高官の歓待や宮中内の宴会などで楽技を披露するために準備された女性の事を指すが実際の妓生の位置付けは芸妓を兼業とする娼婦である。

李氏朝鮮の妓生は高麗女楽をルーツにして，宮中での宴会に用いる為の官妓を置き，妓生を管理するための役所妓生庁が存在した。一般的に，妓生は両班を相手とするため，歌舞音曲・学問・詩歌・鍼灸などに通じている必要があった。また，華麗な衣服や豪華な装飾品の着用が許され，他国の高級娼婦と同様に服飾の流行を先導する役目もした。

日本植民地時代の妓生は養成所（図 1-28）で踊，歌，楽器の専門的な教育を受けて（図 1-29）（図 1-30）いたが王朝の廃止によって宴会などで芸能を披

[37] 踊,歌,楽器を用いて宴会などで楽技を披露することを職業とする女性を指す。身分は低かったが芸能に対しては高く評価されている。日本植民地時代には券番という事務所に所属していた。ソン・バンソン(宋芳松)「朝鮮後期の郷妓と宮中呈才」檀国大学校東洋学研究所，第 25 回東洋学学術大会，1995［原書名：宋芳松「朝鮮後期의鄕妓와宮中呈才」단국대학교동양학연구회，제 25 회동양학학술대회，1995］

露していた。そのため妓生による民俗楽も遊興や娯楽の対象となってしまったのは事実である。日本植民地時代が終わり，1950 年代に大学に国楽科ができる以前までは正楽伝習所と雅楽部員養成所によって正楽の継承行われて来た。大学に国楽科が設科されてからは正楽伝習所と雅楽部員養成所で主に教育した正楽と一般民衆で発生した民俗楽が専門的に教育され始めた。1960 年代からは西洋の管弦楽団に模した国楽管弦楽の授業と創作国楽曲の教育課程に取り入れている。



당시의 기생 배출기관
이었던　한성권번。

図 1-28 妓生を養成していた箕城券番 1920 年頃　京郷新聞　1985 年 11 月 11 日

図 1-29 妓生達が楽器の伴奏に合わせて声楽の教育を受けている。1920 年頃。(宋芳松『韓国音楽通史』一潮閣，1984)

図 1-30 1938 年朝鮮券番の歌曲卒業生（韓明熙『ウリ国楽 100 年』玄岩社，2005，pp.165）

宮廷音楽の教育や演奏活動の縮小と民俗楽の一部が遊興や娯楽の対象となってしまった状況で大学での教育に努力したのは属雅楽部員養成所出身のチャン・サフン(張師勛 장사훈 1916～1991)だった。チャン・サフンは大学での国楽教育のため徳成女子大学に国楽科の設科に努力し，1954 年に実現されるが，1959 年に廃科されてしまう。しかし，大学において初めての国楽教育が行われるようになったことは高く評価されている。その後，同年にソウル大学の音楽学部に国楽科が設科されて現在まで続いている。

王朝の廃止と日本植民地時代に縮小された正楽と民俗楽が遊興や娯楽の対象となり，正楽と民俗楽の継承が厳しくなった。大学で伝統音楽が教育されなかったとしたら，韓国伝統音楽は娯楽の対象となった状況から西洋音楽や芸術と同じように競争しなければならなかったと考えられる。このような厳しい状況から大学において国楽科が設科されたことは，社会的に学問として認める対象となったことを意味する。その当時ソウル大学では正楽と民俗楽の実技や音楽理論と作曲まで教育し，卒業生は正楽と民俗楽の演奏活動や理論的な研究はもちろん作曲教育による創作活動も活発に行った。このように大学の国楽科の教育課程からも伝統音楽の継承の 2 つの側面がみられる。一つは李氏朝鮮時代に盛んだ正楽と民俗楽の実技と韓国伝統音楽理論を教育することから伝統音楽を充実に継承しようとすることが分かる。もう一つは作曲教育を通して新たなスタイルを生み出そうとしていることや改良した伝統楽器の実技教育を取り入れるなど伝統音楽の教育において現代性が重要視されていることが分かる。韓国

の大学の国楽科は 1954 年に徳成女子大学が出来てから 1995 年まで全国に 22 校に国楽科が設けられるようになり韓国伝統音楽の継承の大きい役割を果たしている。

1.5 重要無形文化財制度

韓国音楽団体や国楽教育機関の活動以外に 1960 年代には伝統音楽の保存・継承のために出来た制度が無形文化財制度である。韓国が伝統文化を継承するために無形文化材制度を導入した理由は歴史的な背景から考えられる。1950 年代後半からは伝統音楽のような無形文化も文化財だとういう認識が広まり，伝統音楽も文化財として保護しようとする動きが始まった。韓国政府は文化と伝統芸術が韓国人としての民族史観と価値観に大きい影響を与えると考え，本格的に韓国文化の再建と継承のため韓国政府が動いた。韓国伝統音楽は日本植民地時代と朝鮮戦争によって断絶の危機にあったため，1960 年代からは韓国政府が伝統音楽の保存と継承のために積極的に努力し始めた。そして，1964 年に新しく作成された文化財保護法が実行された。指定文化財の国宝，古跡と一緒に形態がない文化でも歴史的，芸術的に高く評価され，伝統芸能を重要無形文化財に指定することになった（図 1-31）。

伝統音楽の分野においては重要無形文化財の芸を持っている芸能保有者(以下人間文化財に書く)指定されると国が補助し，年に一回その芸を公開するようにした。1960 年代から 1970 年代には重要無形文化財に登録されている文化財の公演や教育に選ばれるなど，重要無形文化財制度の影響が見られた。このように韓国政府は日本植民地時代と朝鮮戦争による断絶の危機にあった伝統音楽を継承するために積極的に動いた。1960 年代から 1970 年代までに重要無形文化財に指定された文化材の中で伝統音楽と民俗芸能に関連して指定された文化財を表 2 に示す[38]。重要無形文化財には李氏朝鮮時代の宮廷音楽から庶民から発生して全国に広まった民俗楽と民俗楽の一部が含まれる民俗芸能から歴史的・芸術的に高く評価されたものが指定される。

[38] ソン・テリョン（孫泰龍）『韓国の伝統楽器』嶺南大学校出版部，2003，pp. 319～331［原書名：손태룡『한국의 전통악기』영남대학교출판부，2003，pp. 319～331］

図 1-31 1964 年に初めて実行された重要無形文化財制度に初めて指定された対象について大きく報道された。第一号に宗廟祭禮楽，第 2 号に楊州別山臺ノリ，第５号にパンソリが指定され，国が補助して年に一回その芸を公開することになった。

表 2　重要無形文化財指定（1960 年代～1970 年代）

	指定日	重要無形文化財指定	区分
1 号	1964.12.7	ジョンミョゼレアク(宗廟祭禮楽　종묘제례악)	正楽
2 号	1964.12.7	ヤンジュビョルサンデノリ （楊州別山臺ノリ 양주별산대놀이）	民俗芸能
3 号	1964.12.7	ナムサダンノリ(男寺党ノリ 남사당놀이)	民俗芸能
5 号	1964.12.24	パンソリ（판소리）	民俗楽
8 号	1966.2.15	カンカンスルレ（강강술래）	民俗芸能
9 号	1966.2.15	ウンサンビョルシンゼ（恩山別神祭　은산별신제）	儀式
11 号	1966.6.29	ノンアク（農楽　농악）	民俗楽
13 号	1967.1.16	カンルンダンオゼ（江陵端午祭 강릉단오제）	民俗芸能
15 号	1967.2.23	プクチョンサザノルム （北青獅子ノルム 북청사자놀음）	民俗芸能
16 号	1967.6.16	ゴムンゴサンジョ（ゴムンゴ散調　거문고산조）	民俗楽
17 号	1967.6.24	ボンサンタルチュム（鳳山タルチュム 봉산탈춤）	民俗芸能
19 号	1968.4.18	ソンソリタリョン（先ソリ打令　선소리타령）	民俗楽
20 号	1968.12.21	デグムジョンジョンアク（大クム正楽　대금정악）	正楽
23 号	1968.12.21	カヤグムサンジョ（伽倻琴散調 가야금산조）	民俗楽
29 号	1969.9.27	ソドソリ（西道ソリ　서도소리）	民俗楽
30 号	1969.11.10	カコク（歌曲 가곡）	正楽
41 号	1971.1.8	カサ（歌詞 가사）	正楽
45 号	1971.3.16	デグムサンジョ（大クム散調　대금산조）	民俗楽
46 号	1971.6.10	ピリジョンアク（ピリ正楽　피리정악）	正楽
50 号	1973.11.5	ヨンサンゼ(霊山祭　영산재)	儀式
51 号	1973.11.5	ナムドドゥルノレ（南道ドゥルノレ　남도들노래）	民俗楽
57 号	1975.7.12	キョンギミンヨ(京畿民謡　경기민요)	民俗楽

重要無形文化財の１号に指定されたのは李氏朝鮮王室において最も重要な儀式とされた宗廟祭に演奏されてきた宗廟祭禮楽であり正楽に分類される。これは李氏朝鮮時代までの国家理念や文化を継承しようとすることを意味する。2 号にはナンタと共通点が多くみられる民俗芸能のヤンジュビョルサンデノリ（楊州別山臺ノリ　양주별산대놀이）が指定された。3 号には民俗楽に分類されるプンムルを含む民俗芸能のナムサダンノリ（男寺党ノリ　남사당놀이）である。ナムサダンノリと総称されるのはプンムルや仮面劇，人形劇，曲芸などの芸能でナムサダンという数十人のグループが継承してきた。

ナムサダンは朝鮮半島各地を旅しながら立ち寄った村で披露しながら村の発展と人々の健康を祈願し，喜捨を集めて生活をした。名目は寺院の建立や補修の為の勧進であり，寺を中心に活動したためこの名称がある。李氏朝鮮時代には多数存在した男寺党も日本の植民地政策によって徐々に減り，現在ではソウルにある伝授会館に保存会として残されているだけである。現在日本においては奈良県においてナムサダン日本支部が伝統の保存と普及に勤めている。現代サムルノリのリーダーであるキム・ドクス（金徳洙 김덕수，1952～）[39]もナムサダンの元メンバーで，3 歳から旅に同行し芸を磨いた。

このように韓国は伝統音楽を継承するため教育や演奏活動と共に制度を通して失って来た文化を復元，継承しようと努力した。

[39] キム・ドクス（金徳洙 김덕수）1952 年生まれ。伝統音楽演奏家，5 才で韓国のジプシーともいえる放浪の芸人集団である男寺党（ナムサダン）に入団。1978 年初めてサムル（四つの伝統打楽器）による演奏を行った。サムルノリの創始者の一人。